

主 題：神の恵み

聖書箇所：コリント人への手紙第2 12章9-10節

私たちの人生には試練がつきものです。時には絶望に襲われ生きる勇気さえ失ってしまうことがあります。信仰をもって歩んでいても弱さのゆえにそのような時があります。信仰の先輩たちも私たちと同じような経験をしてきたはずです。しかし、彼らはその中で学び訓練され、希望を見い出していったのです。弱さを覚えつつも勝利していった信仰者たち、今日の聖書の箇所から、私たちはパウロ自身の格闘の証を見ます。

☆試練の中で勝利してゆくその秘訣

1. 肉体的試練 9節

7節に「…肉体に一つのとげを与えられました。」、このとげは先のとがった木の棒です。痛いのです。パウロは肉体にそのような痛みをもっていたのです。それは、てんかん、目の病い、頭痛、あるいはマラリヤからくる熱だったともいわれています。これは「私を打つための、サタンの使いです。」とパウロは言います。「打つ」とは奴隷に対してする行為です。これは現在形で「苦しみをし続けてゆく」というのです。「サタンの使い」はパウロを弱らせるために、彼が神のわざを成さないように、働くのです。しかし、神の許可がなければそれはできないことです。

パウロ自身にも間違いがありました。8節にはこのとげを取り去ってください、と神に願っています。なぜなら、パウロはこのとげが信仰生活の妨げ、障害であると思っていたからです。様々な困難は私たちにとって障害なのでしょうか？これが取り除かれたら…ができる、もっと…ができるのにと。しかし、パウロは学んだのです。9節にあるとおり「わたしの恵みは、あなたに十分である」と。「とげ」は妨げではなく神からの祝福である、神の完全な目的があるのだと、学んだのです。

◎パウロが学んだこと

(1) 「とげ」は私に必要である。

それは「へりくだる」ためです。6,7節を見ると、パウロは自分を誇ることを控えますが、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげが与えられたとあります。それは、12章の初めから書かれている、パウロ自身の経験からきたことです。神のもとに引き上げられたこと、そのような特別な経験を人々が知って、パウロを過大評価することを避けるためです。誇るのはただ神であるとパウロは言います。

(2) 与えられている恵みのすばらしさ

パウロの願い、「とげ」を取り去ってくださいという願いに対して、神の答えは「NO」でした。パウロの願いは却下されたのです。神はこの「とげ」のためにもっと大きなことができる、といわれます。「十分である」は現在形で、必要な恵みはもう十分にあるということです。問題の中にあっても勝利できるといわれるのです。

(3) 神の栄光を現わす方法

神の力が現わされるのは、自分の力、知恵で解決しようとするのではなく、神の助けに頼ることからきます。弱さのなかにこそ神の力が現われるのです。

⇒私たちはどんな時にも神の助けが必要であると知ることです。それゆえに祈るのです。私たちは様々な困難、苦しみのなかでこそ、多くのことを学びます。神の助けが必要であると。

9節後半に「キリストの力が私をおおう」とありますが、この「おおう」は「上に」と「天幕を張る」の合成語です。宿る、宿泊する、という意味です。出エジプト40:34,35を見ると「雲が会見の天幕をおおう」とあります。雲は神の象徴です。主の栄光が幕屋に満ちるのです。「おおう」はもうすでに起こったこととして記しています。

2. 信仰ゆえの試練、困難 10節

パウロの困難は11:23から書かれていますが、多くの信仰者にとってこの世は安住の地ではありませんでした。ヘブル人への手紙11章には信仰者の歩みが書かれていますが、この世は彼らにふさわしい所ではなかったのです(ヘブル11:38)。

侮辱とは、不正に扱われること、また、不正に扱う人々が公衆の面前で辱めること、です。11:28にはパウロに精神的な重荷があったことが分かります。「このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。」と。

パウロは言います。自分の弱さに気付いたらいいのだと。すべてを支配されるのは神だからです。焦らなくても良い、一日一日、神の助けによって歩いてゆこうと、そして、忍耐をもって祈りつづけることです。パウロも三度も主に願ったのです。神に従ってゆこうとすることです。

「甘んじています」とは、喜ぶ、…に満足する、気に入る、是認するという意味で、試練を喜び、感謝するものとなった、というのです。

これがパウロの勝利の秘訣です。9節に「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです、とありますが、この「言われたのです」は完了形です。この約束は今も私たちの心に確信と希望をもたらしている、というのです。

試練は私たちにとって障害ではないのです。W・ウァズビーはこのように言っています。「わたしたちは説明の上ではなく、約束の上で生きる」と。